

お母さん
お父さん
おとうさん
おばあさん
おじいさん

良い季節になりました。
ゴールデンウィークは楽しく過ごされましたか？
初夏らしいさわやかな季節にふさわしく、
俳句の季語にもさわやかなものがたくさんあります。
今回もうさおさんと、健さんに
投句をいただきました。

まずうさおさんの句です。

春の雨病床の母の眉翳り

お母様ご心配ですね。御大事になさってください。
俳句ですが、中人になっています。中七はなるべく崩したくないのです。
少し順序を入れ替えましょう。俳句もリズムが必要です。

*病む母の眉の翳りや春の雨

葉桜に長雨落ちて気に染まぬ

下五の気に染まぬというのは、あくまでも主観です。
俳句はなるべく自分の考えを説明しないほうが良いのです。

*葉桜に長々し雨落ちにけり

寒いこともう春なのに曇り空

寒いことという感覚もすっきりと読み手にわからせることが俳句なのです。
すべてを言ってしまわない事です。

*春来たるとは名ばかりの曇り空

暖かき日にもコートに羽織る吾

この句の場合は吾というのが不要です。省けるものは省きましょう。

*穏やかな日とは言えどもコートかな

続いて健さんの句です。





一声をかけて出かける昭和の日

季語をうまく使われています。一声をかけて出かけるのは、何も昭和の日に限らないですが、近所に一言出かけてきますとか・・・古き良き時代を感じるではありませんか。

昼過ぎの蕎麦屋に一人傘雨の忌

久保田万太郎の忌日「傘雨の忌」蕎麦屋と万太郎がぴったりとし過ぎて、付き過ぎの様でもあるのですが、ひとりというのがいかにも万太郎の晩年をあらわしていて、良い句になっています。

お二人の句を見比べると、根本的に手法が違うように思います。

うさおさんは俳句の基本である「写生句」

健さんの句は季語をうまく使いながら、読み手にゆだねる手法
どちらの作句法も大切だと思います。

その上でそれぞれに、今度は違う手法を取り入れられると、
より広がりのある句になると思うのです。

たとえばうさおさんには写生をもとに、そこにどんな季語がグッとくるか、
当たり前でなくホウ！！と驚きのある季語を探してみる。

そうするともっともっと良い句になると思います。

健さんは写生の句を多く作られる事をお勧めします。

季語の使い方が、とてもお上手なので、写生句の中により効果的な季語を
入れ込んでみる。

今でも十分良い句を詠まれているのですから、

より高いものを目指されると良いと思います。

そんな事を書いている私は・・・と言えば、今も俳句不調の真っただ中。

お二人に負けないように、がんばらなければ・・・

爆心の幹みな凛々し花盛る

慟哭を呑んで夾竹桃の赤

滴りや緑真中の松山城



ゆうこ